鶴龜之夢

KODAK Color Control Patches
KODAK Gray Scale
Kodak

右夢記一篇為先人九幸先生七旬時戲筆偶被遺忝匿中護之嘗時博士柴公見歎曰
玄白真奇才矣此余所親聞者今茲壬辰余犬馬之齢亦及七旬親故来賀各有
嘉貺想余不肖何以致之得無非先人餘蔭耶因不能無感於著周浄書數
通以贈来客并報其嘉貺云

天保三年壬辰秋八月

七十翁 杉田玄白 謹識

高祖父九幸玄白翁、日常愛玩せられた文房具七種をつらねて鶴龜之夢と題せる戯文をものせられた。文は鷗齋日錄の享和元年十二月五日の條に出てゐる。翌二年古稀の春、圖を加へて人の需に應じて書いて贈られた。七種を選ばれたのは七福神になぞらへられたものかと思はれる。後紫石君七十歳、父の戯墨の筐底に埋れあるを遺憾に思はれて、之を枠に上せて知人に頒たれたが、今はそれも稀覯のものとなつて知る人も尠ない。おのれ今又同じ七十路の坂に登りたるにつけて、家の佳例に倣はんとて、之を複製して親戚知人にお頒ちする。

昭和十四年七月

玄曰玄孫 七十翁 杉田六藏識